

施策番号 4-2-3	施策名 道路交通環境の整備	基本目標	自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり			
		政策名	快適な都市環境づくりの推進			
	主管課	環境土木課	課長名	橋本 直樹	内線	428
	施策関係課	政策推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
道路交通、公共交通における移動の快適性、利便性の向上をすすめます。		町民	<ul style="list-style-type: none"> 交通アクセスを強化する 目的地までの快適な移動、利便性の向上をすすめる 					安全で快適な生活を送ることができる	
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	2022年度目標	
①	冬期間の移動(徒歩、車、公共交通機関等)は、安全・安心と感じる町民の割合	%	65.4	52.7	61.0	56.7	51.2	70.7	
②	コミュニティバスの1便あたりの乗車人数	人	10.1	9.9	7.4	7.2	7.4	10.5	
③									
④									
成果指標設定の考え方	<p>①冬期間の移動に対する満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定し、段階的に向上させ、目標値を目指すもの(※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更)。</p> <p>②公共交通機関に対する町民の満足度を向上させる施策を講じる必要があることから成果指標に設定し、生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)に基づき年0.1人向上させ、目標値を目指すもの。</p>								

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算	2022年度決算
施策事業費(千円)	665,735	839,236	818,123	885,834	878,833
人工数(業務量)	6.2407	6.2293	6.3072	5.8826	4.3173

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2022年度の成果評価(前年度との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①低下→降雪状況(降雪時間帯・降雪量)に対する除雪作業等が主な要因と思われる。 成果指標②は微増→コロナが落ち着いてきたことが要因と思われる。
②第5期総合計画前期実施計画の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	①除雪作業に対する理解度を高め、試行的な玄関前除雪(間口除雪)等により目標達成は可能と考えたが、降雪状況により満足度は大きく変動し、目標値までの乖離が大きかった。 ②コミュニティバスの利用状況を分析し、課題点に対する対応策(路線変更等)を講じ、満足度を向上させることで目標達成は可能と考えたが、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛もあり、目標値までの乖離が大きかった。
(2) 施策の成果評価に対する第5期総合計画前期実施計画の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町道・歩道・駐車場等除排雪事業 地域公共交通確保対策事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> ●地域公共交通の確保 →コミュニティバス運行路線を見直し、利便性向上を図った。また、農村部では高齢者を対象としたタクシー助成のほかにMaaS(マース)事業のコミュニティタクシー(予約型乗り合いタクシー)を試行的に運行した。 ●道路パトロールと維持修繕 →パトロール強化及び損傷か所の早期発見、修繕を目的とした「道路施設維持管理業務」を民間会社で組織する組合に委託し、道路利用者の安全確保に努めた。 ●除排雪作業 →降雪及び風雪状況に応じた除雪とパトロールを適宜実施し、冬期間の道路利用者の安全確保に努めた。 		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	成果指標は低下しているが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいなかで、新たな取り組みを実施することにより、維持したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産機械や輸送機械の大型化に伴い、安全な道路構造が求められている。 ・橋りょう長寿命化修繕計画に基づく修繕が求められている。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路施設の経年劣化により、道路の補修量の増加が見込まれる。 ・同一水準での整備ではなく、各路線の役割に沿った水準で整備を進めることにより、整備延長を増加させる必要がある。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・道路(歩道)はすべての方が使いやすいユニバーサルデザインの考え方で整備を進めてほしい。→ユニバーサルデザイン(UD)の考え方で整備を進めている。 ・郊外の砂利道について舗装してほしい。→道路整備計画(5か年)の優先順に整備を進めている。 ・ICTを活用した効率的な道路交通環境の整備推進を検討してほしい。→除雪業務において、試行的に除雪車(GPS搭載)で実施、検証している。 ・コミュニティバスの運行ルートを見直してほしい。→町民からの要望に基づき、必要に応じて見直しを行った。 ・高齢者の方々の免許返納に対する町の支援が必要である。→免許返納窓口を庁舎内に年2回設置した。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<p>●交通弱者への交通手段の確保(地域公共交通確保対策事業)</p> <p>農村部については、高齢者を対象にしたタクシー助成の利用者が増えてきており、引き続き周知を図る。市街地については、コミバスの利用者がコロナ前になかなか戻らず、その要因を分析する必要がある。</p> <p>●安全で安心な道路環境の整備(町道・歩道・駐車場等維持管理事業)</p> <p>老朽化した橋りょうの修繕、交通安全施設や緑化、省エネ街灯などの環境対策、案内標識の整備、高齢者や障がい者など、多様な人々に配慮した道路環境整備を計画的に実施する。</p> <p>冬期間における除排雪対策を含め、車道・歩道の適切な維持管理を行うため、拠点となる車両管理センターの移転改築を進める必要がある。</p>
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に「維持した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組に対する意見	市街地の公共交通についてコミバス以外の手法も検討してください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	コミュニティバスの利用者減少に対し、コロナ禍でありながらも免許返納窓口を設置したりする等対策を行っていたのと、冬期間の除雪もよくやっているということから「維持した」と評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・人気のない場所の除雪にも目を向けてほしい。 ・帯広の病院まで行くにも使えるタクシー助成が欲しい。 	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					